

| 小・中学校 授業づくりシート                    |   | 学年  | 小5 | 内容項目   | 親切, 思いやり |
|-----------------------------------|---|---|----|--|----------|
| 指導観                               | 「発達」の段階一覧表」を踏まえた  |   |    |  |          |
|                                   | 内容項目の理解   | 実態把握  |    | 教材の活用  |          |
|                                   | 相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようにする時期であるため、「相手の立場に立って親切にする」とはどのようなことなのか捉えさせていきたい。  | 自他を客観的に捉えることができるからこそ、人の目を気にして親切にすることが難しい児童がいる。また、人間関係の深さの違いによって親切にする、しないの判断をしてしまう児童もいる。 |    | 教材は「くずれ落ちただんボール箱」を活用する。行為の動機も考えられる時期であることから、「わたし」が一貫して相手の「おばあさん」のために行動していることに気付かせたい。 |          |
| ねらい                               | 親切にすることの大切さや難しさを話し合う活動を通して、親切にすることに大切なことは何かを改めて考え、誰に対しても相手の立場に立って親切にしようとする道徳的判断力を育てる。   |   |    |  |          |
| 手立て                               | 自分自身の「親切にすること」に対する判断を改めて自覚する場の設定  |   |    |  |          |
| 指導の手立ての具体（想定した児童生徒の反応から目指す姿までの過程） | <p>「親切」に対する判断から、問題意識を持たせる導入</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>（「困っている人がいるよ。あなたは どうする？」の場面を提示）<br/>みんなだったらどうしますか？</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>相手が誰でも手伝うよ。</p> <p>親しくない友達だもしかししたらそのままにしまいかもしれない。</p> <p>人の目を気にしたり、仲のよさの違いで親切にできないときもありますよね。でも、そのままにしてしまうとどうかな？</p> <p>そのままにするとややもやするなあ。本当は助けた方がいいのは分かっているんだけど…。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>一人だと勇気が出ないかもしれないなあ。何か恥ずかしい。</p> <p>周りに人がいたら、どうしようかなって迷うかもしれない。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>親切にするには、どんなことが大切なのかな。</p> </div> |   |    |  |          |
|                                   | <p>「相手の立場に立って親切にすること」に対して自分自身を振り返る活動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <p>みんなは「相手の立場に立って」親切にできていますか？</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>今までは、あまり考えたことがなかったなあ。相手がどうしてほしいか、まで考えていなかったかもしれない。</p> <p>人がたくさんいたら恥ずかしいとか、相手が知らない人だから、とか考えてどうしてもできないときがあった。でも、相手が困っていたら本当は行動すべきだったんだな。</p> <p>仲のよさの違いで、親切にしたり、親切にしなかったりしていたかも…。これからは、仲のよさとかじゃなくて、困っている人がいたら行動したいな。</p> </div> </div>   |   |    |  |          |

## 第5学年道徳科学習指導案

指導月日 令和〇年〇月 〇日

授業者 〇〇 〇〇

- 1 主題名 誰に対しても親切に 「B-(7) 親切, 思いやり」  
教材名 「くずれ落ちただんボール箱」(東京書籍 新しい道徳5)

### 2 指導観

#### (1) 内容項目の理解

本主題は、学習指導要領(平成29年告示)の次の内容を受けて設定されたものである。

第3章 特別の教科 道徳 第2 内容〔親切, 思いやり〕

〔第5学年及び第6学年〕

誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編によると、望ましい人間関係を構築するためには「互いが相手に対して思いやりの心を持って接するようにすること」が必要不可欠である。中学年では、相手のことを思いやり、自分から進んで親切にすることについて学んでいる。その学びを生かし、高学年では思いやりの心を誰に対しても持つことができるよう、関わりの対象を社会へと広げていくことが大切である。また、自他を客観的に捉えることができるようになってくるこの時期には、相手のことを考えて親切にしなければならないと分かっているながらも、周りの目を気にしてしまい行動に移すことが難しくなってくる。人間関係の深さの違いによる自分自身が親切に行動する判断や、親切に行動する難しさについて考えさせていくことで、思いやりや親切な行為の意義を自分なりに見いださせていきたい。

#### (2) 実態把握

中学年において「進んで親切にするよさ」を学習している。実態として、学校生活の中では親切に行動することができている児童が多い。自律的な態度が身に付きつつあり、低学年の子を保健室に連れて行くなど自分の判断で親切にすることができるようになってきた。しかし、人間関係の深さの違いにより、親切にすることが難しい児童の姿も見られる。相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになる時期であるため、「相手の立場に立って親切にする」とはどのようなことかを考えさせていきたい。

また、社会との関わりで考えることができるようになってくる時期であることを踏まえ、公共の場や初対面の相手、人間関係の深さに関係なく分け隔てなく親切に関わることができるように、自分の「親切にすること」に対する判断を改めて考えさせていきたい。

#### (3) 教材の活用

本教材は、4学年の教材「なにかお手伝いできることはありますか?」の内容と似通っており、見ず知らずの困っている人に親切にするという話である。しかし、4学年教材では親切にした相手が喜んでくれたという内容であるのに対し、本教材では主人公の「わたし」が親切でした行為が周りの人に誤解され、しかも注意されてしまうという内容である。高学年段階の児童は、自他を客観的に捉え、相手の置かれている状況を想像できるようになる。一方で、自分を客観視できることから、周囲の目等を気にし、知らない人や関係が深くない人に対して親切にすることに難しさを感じる時期である。そこで、本時では、どのような行動が「相手の立場に立つ」ことなのかを捉えさせるために、「わたし」の行動に着目させていく。

本教材は、親切に行動することの難しさを踏まえつつ、「相手の立場に立って親切にする」とはどのようなことか、自分はどのように行動すべきかを考えることができる、5学年にふさわしい内容である。

### 3 本時の指導

#### (1) ねらい

親切にすることの大切さや難しさを話し合う活動を通して、親切にするときに大切なことは何かを改めて考え、誰に対しても相手の立場に立って親切にしようとする道徳的判断力を育てる。

#### (2) 手立て<自分自身の「親切にすること」に対する捉えを改めて自覚する場の設定>

(授業づくりシート参照)

自分自身の「親切にすること」に対する判断を改めて自覚する場面を導入で設定することで、親切にすることに対して問題意識を持たせる。また、展開後段で「相手の立場に立って親切にできているか」を自分との関わりで考えさせることで、「相手がどんなことで困っていて、自分はどう行動すべきか」ということを頭に入れておきたい」等、親切にする難しさを乗り越えて、相手の立場に立つことにまで考えを深めさせたい。

#### (3) 指導過程 (別ページ)

#### (4) 評価

<児童の評価>

- 「わたし」の行動から、「相手の立場に立って親切にすること」について考えることができたか。(多面的・多角的)
- 親切にする難しさを踏まえつつ、自分の「親切にすること」に対する判断を改めて自覚し、「相手の立場に立って親切にすること」を自分なりに考えることができたか。(自分との関わり)

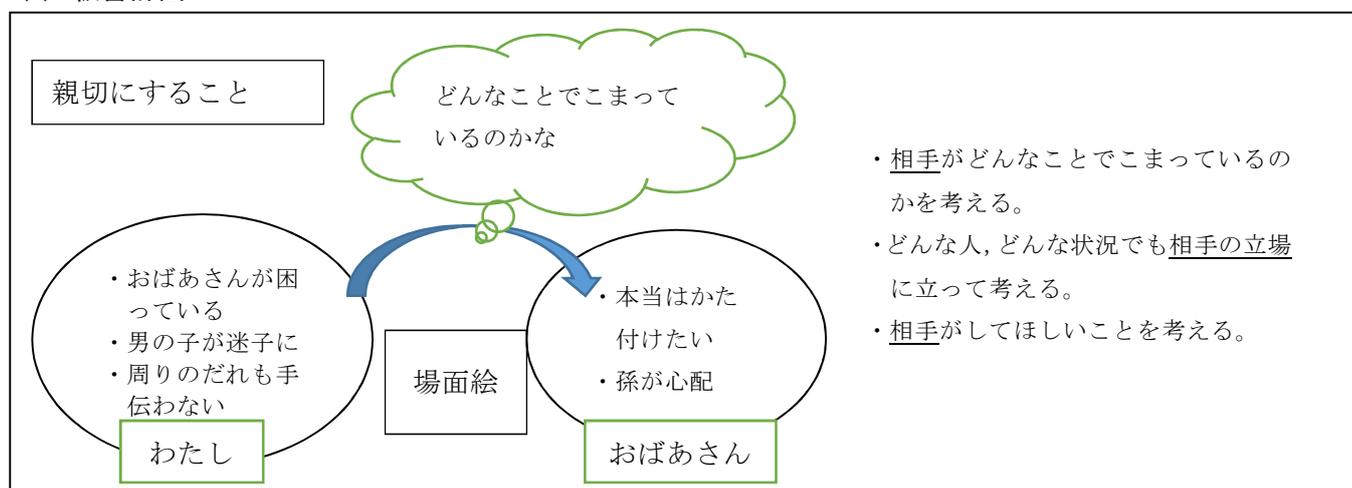
<指導方法の工夫に対する教師の評価>

- 自分自身の「親切にすること」に対する判断を改めて自覚する場の設定は、小学校高学年としてふさわしい手立てだったか。

#### (5) 準備物

教師：教科書，ワークシート，提示絵

#### (6) 板書計画



指導過程

| 段階        | 学習活動<br>○主な発問(◎中心発問)  | 予想される児童の反応   | 指導上の留意点<br>○評価 【 】評価方法  |
|-----------|---|--|---|
| 導入<br>10分 | <p>1 学習への問題意識を持つ。</p> <p>○この場面なら、あなたはどうしますか。</p> <div data-bbox="229 752 727 824" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">親切にすること</div> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手が誰でも自分なら助けるかなあ。</li> <li>・親しくない友達だと、もしかしたらそのままかもしれない。</li> <li>・知らない人だと声を掛けられないかもしれない。</li> <li>・周りに人がいたら、どうしようかなって迷うかもしれない。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の「親切」に対する判断を改めて自覚する場の設定</li> <li>・教科書「困っている人がいる。あなたはどうする？」の場面を提示し、相手が家族、親しい友達、あまり親しくない友達、知らない人ならどう行動するか、等様々な状況でどう判断するかを投げ掛ける。</li> <li>・現時点での自分の「親切」にできるとき、できないときの判断を振り返らせ、本時の学習への課題意識を持たせる。</li> </ul>   |
| 展開<br>30分 | <p>2 「くずれ落ちたダンボール箱」を読んで、「親切にすること」について考える。</p> <p>○「わたし」のどのような行動が親切だと感じましたか。</p> <p>◎親切にするときに必要なことはどんなことでしょうか。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・おばあさんを助けたところ。おばあさんは段ボールを片付けたくても男の子が先に行ってしまったから、できないと思って声を掛けた。</li> <li>・店員さんに注意されたけど、片付けを続けたところ。</li> <li>・おばあさんにお礼を言われたとき、店員さんに注意されたことを言わなかったところ。言ったら気を遣わせると思ったからかな。</li> </ul> <p>・相手が誰とかではなく、どんなことで困っているのか、助けが必要なのか</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせの前に大体のあらすじを伝えるとともに、「わたし」の親切な行動に着目して聞くよう指示をする。</li> <li>・「わたし」のどのような行動が親切だと思ったかを問い掛けるとともに、なぜそう考えたか理由も発言させる。そうすることで、「わたし」が、「おばあさん」の状況や立場（片付けたくても男の子が先に行ってしまったって困っていたこと、周りの人が誰も助けなかったことなど）を考えて行動していたことに気付かせていく。</li> <li>・導入での、自分たちの「親切にする、しない」の判断と「わたし」の行動を比較させ、相手の立場に立つことが誰に対しても親切にすることにつながることを捉えさせる。</li> <li>○多面的・多角的<br/>【発言、様子】</li> <li>・板書で、「相手」「どんなことで困っているのか」「相手がしてほしいこと」など、本時の学</li> </ul> |

|                            |   |  |  |
|----------------------------|---|--|--|
|                            |   | <p>をよく考えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に必要以上に気を遣わせないことかな。</li> <li>・相手がどうしてほしいのかを考えること。</li> <li>・自分がどう行動することが相手のためになるかを考えること。</li> </ul>  | <p>びのキーワードには線を引き、「相手の立場に立つ」ことを捉えさせていく。</p>   |
|                            | <p><b>3 自己の生き方について振り返る。</b><br/>○みんなは「相手の立場に立って」親切にできていますか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までは、あまり考えたことがなかったなあ。相手がどうしてほしいか、まで考えてなかったかもしれない。</li> <li>・人がたくさんいたら恥ずかしいとか、相手が知らない人だから、とか考えてどうしてもできないときがあった。でも、相手が困っていたら本当は行動すべきだったんだな。</li> <li>・仲のよさの違いで、助けたり助けなかったりしていたかもしれない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>自分自身の「親切」に対する判断を改めて自覚する場の設定</b></li> <li>・ 導入で用いた「困っている人がいる。あなたはどうする？」の場面を改めて提示し、授業前の自分の「親切」に対する判断を想起させた上で、ワークシートに記述させる。</li> <li>・ 「これまであまりできていなかった」などの記述に偏った場合、親切にする「難しさ」について共感しながら、今後はどう在りたいかを考えさせる。</li> </ul> <p>○自分との関わり<br/>【グループや全体交流での発言、ワークシートの記述】</p> |
| <p>終<br/>末<br/>5<br/>分</p> | <p><b>4 本時の学習を振り返る。</b><br/>・ 教師の説話を聞く。</p>                     |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 親切にする難しさ、親切にされたことについての説話を話す。</li> <li>・ 本時で考えたことを基に、今後の生活への意欲を持たせる。</li> </ul>  |

## 親切にするときに大切なこと

あなたは どうする？

これまでの生活で…。

